

特定非営利活動法人ほっぷの森  
2022 年度（令和 4 年度） 事業報告（総括）

2022 年度は、次第にコロナ感染症拡大が少しずつおさまる傾向が見え、次第に通常の事業活動を取り戻していく過程にあります。

その中でも、スタッフそしてパートナーが最大限に努力し事業を継続できたことは素晴らしいことだと改めてほっぷの森の活動に感謝と誇りを感じております。

第二次対戦後の日本は、高度経済成長の時代を経て、少子高齢化の時代を進んでいます。1970 年に 65 歳以上の高齢者が 7%を超える高齢化社会、1994 年に 14%を超えて高齢社会となりましたが、2007 年には、高齢化率 21%を超え、超高齢社会に到達しています。さらに私たちベビーブーマーがすべて後期高齢者に達する 2025 年には高齢化率 30%を超える見込みです。

総人口も急激に減少し、当然ながら高齢者もいずれ減少に転じます。

多くの介護事業者は事業の存立が困難になり、障害者の事業に参入をしてくる可能性が極めて高いと予想され、事業所間の競争が生まれ、淘汰されてしまう事業所も少なくないと思われまます。

その意味でもカレッジは、自立訓練（生活訓練）と移行支援をトータルでカバーし、一般就労を目指す障がいのある人が豊かな人生の夢に向かって継続的に楽しんでトレーニングに励む場所となればうれしいです。

私たちがロゴセラピーでいう、「まなざしを外に向ける」ことを常に忘れずに各事業所の新たな価値と意味に向かって努力を重ねていきたいと考えております。

今後とも暖かいご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ほっぷの森  
理事長 白木 福次郎

## 2022 年度（令和 4 年度） 就労支援センターほっぷ事業報告

はじめに

昨年に引き続き、コロナウイルス感染対策をしながらの 1 年だったが徐々に通常の活動に向けて準備する期間でもありました。特に令和 5 年度から開始予定の自立訓練事業の準備もしながら新しいプログラムも検討しながら活動してきました。その中でも 13 名の方が就労（復職、A 型含む）している。就労する方がいるなか新規利用は少なくあらためて関係機関に周知を行っていかねばならない。

### 1. 利用者の推移と状況（カッコ内は、2021 年度状況）

\*別紙「年間実施事業報告」参照

2022 年度の月利用者数は 14 名から 18 名で推移(14～18 名)。出席率は月 77.1%～87.2% (83.6%～88.9%)出席率が 70%台の月もあった。。

新規利用者 14 名(15 名)。うち高次脳機能障害 11 名(10 名)、若年性認知症 1 名 (2 名)、精神疾患 1 名(1 名)、発達障害 0 名(1 名)、身体障害 0 名 (1 名)、知的障害 0 名(0 名)、難病 1 名(0 名)。

紹介元については、病院が 4 名、障害者福祉センター(自立訓練)が 3 名、相談支援事業所が 4 名、ご本人・ご家族からの直接の相談が 3 名となっている。

終了者に関しては、16 名(16 名)が利用終了。内訳は、一般企業への就労は 11 名(9 名)、復職 1 名(1 名)。A 型への就労は 1 名(2 名)、家族の介護ために 1 名、復職のための調整のため 1 名が利用を中止している。令和 4 年度は就労移行支援機関の延長（コロナウイルス感染関係）はなく期間内での一般就労が難しく B 型に移行した方が 1 名いた。

就職活動に関して、春の合同面接会は中止だったが 9 月、12 月、2 月の面接会には参加することができた。そのほかにハローワーク求人からの企業見学、実習を行い、また卒業生がいる企業からの新規雇用のご相談もいただき制限がある中でも、13 名の方の就労（復職、A 型）できた。

利用終了者 16 名に対して、新規利用者 14 名。2023 年 3 月の登録者数は 17 名で目標と

していた 20～22 名は達成できなかった。出席率は 80%を下回る月もあったので引き続き新規利用者を増やしながらか出席率を上げていきたい。

## 2. プログラムの取り組み状況

\*別紙「年間実施事業報告」及び回覧「各プログラム事業報告書」参照

継続して実施しているプログラムが多いが登録している利用者や新しい職員体制のなか工夫しながら行っている。特に引き続きコロナ禍ということもあり室内での運動系のプログラムや飲食が伴う活動は気を付けながら実施した。少しずつ「運動プログラム」のように外出する活動も増やしている。

また「ほっぶの森カレッジ」を想定して新たなプログラムを実施して「コミュニケーション術」「表現のプログラム」など内容や取り組み方など試行錯誤しながら実施した。今後、生活訓練と合同で実施するプログラムを検討、実施していきたい。

## 3. 就労に向けての活動状況

\*別紙「年間実施事業報告」及び回覧「各プログラム事業報告書」参照

2022 年度も引き続きコロナ禍ということもあり感染対策を取りながらの活動になりました。企業の障害者求人も増えてきて求人に対して事前見学や実習を行う企業様も多くあった。個別での対応ではあったがハローワークでの相談や見学や実習の同行など企業担当者とも相談しながら丁寧な対応ができた。特に既に関係性のある卒業生のいる企業様からの追加雇用のご相談もいただいたこともあり、それだけでも 5 名が就労している。引き続き連携していきたい。

## 4. 利用終了後のフォローアップ \*別紙「年間実施事業報告」参照

2022 年 4 月から 2023 年 3 月までの就労者で、一般企業や A 型事業所へ就労・復職した方が 13 名いる。求人検討する段階や見学や実習を行う上で企業担当者とも様々な情報を共有し、就労(復職)が決まった際に、本人(ご家族)・企業に今後のフォローアップ、就労定着支援事業について説明をし、支援の継続を実施。2022 年度も就労 6 ヶ月を経過した 5 名の方が、就労定着支援事業である『就労定着支援センターほっぶの実』のサービスの利用開始

となった。

先輩会は年3回の予定であったが、コロナウイルスの状況を見ながら、春・秋冬と2回に分けて実施した。全員が集まると人数が多くなりすぎるので春は3回に分けて4月23日（土）13名参加、5月14日（土）9名参加、6月4日（土）14名参加だった。秋冬は2回に分けて10月1日（土）22名参加、11月5日（土）28名参加だった。各回4~5グループに分かれてトークする形で実施。トーク内容は各グループ発表してもらうことで、全体で情報を共有した。コロナウイルス対策として、発表のしかたや写真はグループごとにし、昼食交流会は行わず解散とした。

就労している先輩対象の「先輩新年会」はコロナウイルスの影響で今回も実施しなかった。

## 5. 家族支援

2022年度は春の先輩会実施後に家族個別面談を実施し5月が8名、6月が2名参加している。母親、妻とそれぞれ立場の違いもあり悩みも異なるが個別の面談も必要だが同じ立場の方と話をする機会も今後作っていききたい。

## 6. 他機関との連携と研修実績 \*別紙「年間実施事業報告」参照

宮城障害者能力開発校委託訓練を前期と後期で募集するも、申込はなかった。期間が決まっている訓練なので周知や募集に難しいところもあるが継続して実施していききたい。

インターンシップ、ボランティア、研修や見学の受け入れに関しては、コロナウイルスの状況から慎重に検討をしながら、仙台ボランティアセンターや東北福祉大学、宮城学院女子大学から受け入れた。

コロナウイルス感染拡大の影響で、他機関との交流や会議に制限はあったが、WEB（Zoom）開催など状況を見ながら参加し、情報交換や交流を図った。また、研修に関しても開催されたものには参加し、スキルアップに努めた。引き続き積極的に参加し事業所内で共有していきたい。今後、生活訓練事業の案内も含め医療機関など訪問し情報共有していきたい。

就労支援センターほっふ

サービス管理責任者 貫洞 正一

2022	令和4年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年1月	2月	3月
利用終了者状況 →終了後状況 終了者(16名) ・一般就労:11名 ・復職:1名 ・A型:1名 ・B型:1名 ・中止:2名	・4/1~ブルデンシャル生命保険 ・4/1~仙台市市民文化事業団		・6/1~東日本コンクリート	・7/21~エムズスタイル北仙台(A型) ・7/31 利用終了→B型	・8/1~アイリスオーヤマ ・8/1~アイリスオーヤマ ・8/17~アイリスオーヤマ		・10/3~東日本放送 ・10/25~清月記	・11/1~新みやぎ農業協同組合 ・11/1~宮城日産自動車	利用中止 ・12/23 親の介護のため	トライアル雇用終了(利用終了) ・1/24~エス	・2/6~清月記	・4/3~茂庭苑 ・4/3~リコージャパン(復職) 利用中止 1名 ・復職に向けて調整中
新規利用者数 紹介元 →利用開始日 (15名)	2名 ・1日~ハンズ宮城野 ・11日~直接	1名 ・17日~求人サポートセンター	1名 ・太白障福C	1名 ・どんまい梅澤さん	1名 ・清山会	1名 ・多賀城市		2名 ・2日~太白障福C ・2日~どんまい梅澤さん		2名 ・16日~内科佐藤病院 ・23日~直接(南東北病院)	2名 ・2日~仙台リハビリテーション病院 ・20日~内科佐藤病院	1名 ・13日~どんまい梅澤さん
利用数 出席率(平均者数)	15名→17名 85.8%(13.9名)	16名→18名 79.7%(14.1名)	18名 87.2%(15.5名)	18名 84.3%(15.3名)	15名 83.9%(12.6名)	16名 78.2%(12.1名)	15名 77.1%(11.5名)	15名 83.2%(12.4名)	15名 82.8%(12.3名)	14名 80.4%(11.0名)	16名 83.0%(13.3名)	17名 86.0%(14.3名)
月稼働日数(土)	20日(他土曜日1日)	19日(他土曜日1日)	22日(他土曜日1日)	20日(他土曜日2日)	19日(他土曜日2日)	20日(他土曜日2日)	21日(他土曜日1日)	20日(他土曜日2日)	20日(他土曜日1日)	19日(他土曜日2日)	19日(他土曜日1日)	22日(他土曜日2日)
見学者数 (紹介元)	3名 ・どんまい梅澤さん ・どんまい梅澤さん ・長町病院	3名 ・太白障福C ・直接 ・太白障福C	3名 ・直接 ・雲母倶楽部 ・どんまい梅澤さん	5名 ・直接 ・清山会 ・多賀城市 ・ワンファミリー仙台 ・ワンファミリー仙台	なし	1名 ・どんまい梅澤さん	3名 ・宮城障害者職業センター ・東北医科薬科大学病院 ・東北大学病院	5名 ・内科佐藤病院 ・職業C ・直接(原CI) ・仙台リハビリテーション病院 ・直接※アポなし	0名	2名 ・直接(南東北病院) ・直接(内科佐藤病院)	1名 ・どんまい梅澤さん	1名 ・直接(東北大学病院)
体験利用者数	0名	2名 ・求人サポートセンター ・太白障福C	0名	2名 ・どんまい梅澤さん ・清山会	1名 ・清山会	3名 ・太白障福C ・多賀城市 ・どんまい梅澤さん	1名 ・どんまい梅澤さん	0名	2名 ・仙台リハビリテーション病院 ・内科佐藤病院	1名 ・直接(南東北病院)	1名 ・直接(内科佐藤病院)	2名 ・どんまい梅澤さん ・直接(前利用者、A型就労中)
障害者就職面接会	未実施						ふれあいワークフェア		みやぎ障害者合同面接会	ミニ面接会(塩釜)	障害者合同面接会ふれあいウィーク	
模擬面接												
セミナー・講習会 企業講話						・障害者雇用促進セミナー(zoom)		・高次脳機能障害者支援事業研修会 ・聞いてみよう障害者要員		・宮城高次脳機能障害者リハビリテーション講習会(zoom)	・ブルデンシャル生命保険	
企業訪問		・清月記(4名)	・アイリスオーヤマ(4名)									
個別企業訪問	・東日本コンクリート		・エムズスタイル北仙台	・坂病院	・清月記 ・新みやぎ農業協同組合 ・東日本放送	・宮城日産自動車	・仙台市交通局		・清月記			・リアルスマイル(A型)
企業(職場)実習 →経過		・東日本コンクリート→就労	・ほっとファーム美里 ・HELLOS多賀城	・アイリスオーヤマ ・エムズスタイル北仙台	・清月記	・宮城日産自動車 ・東日本放送			・清月記			
体験実習先 (体験者数)						宮城県ビジネスアシスタント事業→受託できず		・泉図書館(3名)		・鶴ヶ谷温水プール(2名)		
法人内実習												
ハローワーク活動	随時必要時に活動											
先輩会	23日(13名参加) 就労者(一般・A型)対象	14日(9名参加) 就労者(一般・A型)対象	4日(14名参加) 就労者(一般・A型)対象				1日(22名参加) 就労者(一般・A型)対象	5日(28名参加) 就労者(一般・A型)対象				
プログラム	グループミーティング(始めのミーティング・終わりのミーティング)、セルフトレーニング											
(毎日実施)	Bトレ、就職に向けて、メモリーノート、文章理解、文章表現、スポーツコミュニケーション(ベタンク・段ボールバスケ、ペットボトルポリング、卓球他)、ストレッチ、作業と身体											
(週1回実施)	コミュニケーションⅡ、殿プロ、姫プロ、仕事について、グループワーク、リズム体操、フロアホッケー											
(月1回程度実施)	コミュニケーションⅡ、殿プロ、姫プロ、仕事について、グループワーク、リズム体操、フロアホッケー											
フリープログラム	4/16(土)4名	5/7(土)6名	6/18(土)6名	7/9(土)5名、23(土)3名	8/6(土)4名、20(土)4名	9/3(土)5名、9/17(土)3名	10/22(土)1名	11/12(土)3名、26(土)3名	12/10(土)4名	1/14(土)3名、28(土)2名	2/18(土)3名	3/11(土)2名、3/25(土)5名
(随時実施)	・春の行事(八木山動物公園)	・健康増進センター(zoom)	・遊覧訓練 ・栄養管理講座 ・健康増進センター(zoom)	・健康増進センター(zoom) ・ITサポートPCグループ講習(サンクスカード、書中見舞い) ・健康増進センター(zoom)	・夏の行事(八木山動物公園園) ・健康増進センター(zoom) ・健康増進センター(zoom)	・健康増進センター ・健康増進センター(zoom)	・栄養管理講座 ・健康増進センター ・健康増進センター(zoom)	・健康増進センター ・健康増進センター(zoom) ・秋の行事(美術館) ・木下サーカス鑑賞 ・表現のプログラム	・健康増進センター(zoom) ・表現のプログラム ・健康増進センター(zoom) ・ITサポートPCグループ講習(Xmasカード、年賀状) ・表現のプログラム	・表現のプログラム ・健康増進センター ・健康増進センター(zoom) ・もりのみやこふれあいコンサート(youtube視聴)	・健康増進センター(zoom) ・表現のプログラム	・表現のプログラム ・臨床美術 ・健康増進センター ・健康増進センター(zoom)
家族見学・講習会		・家族交流会 →14(土)8名	・家族交流会 →4(土)2名									
研修生 ボランティア等	・宮城学院女子大学生 ・赤門短期大学看護学科教員	・東北福祉大学生 ・赤門短期大学看護学科教員	・東北福祉大学生 ・赤門短期大学看護学科教員	・東北福祉大学生 ・宮城学院女子大学生	・東北福祉大学生 ・宮城学院女子大学生	・東北福祉大学生	・東北福祉大学生	・東北福祉大学生		・宮城学院女子大学生		・東北福祉大学生
会議、講習会、研修会 等	・企業連携(zoom) ・AKG(貫洞)	・企業連携(zoom) ・AKG(zoom) ・課題共有カンファレンス ・全国就労移行支援事業所連絡協議会総会	・AKG(zoom) ・宮城就業支援ネットワーク ・企業連携(zoom)	・就労移行情報交換会議 ・就労移行支援事業所等連絡会議 ・企業連携(zoom) ・AKG(zoom) ・サポネットあおばのつどい(オンライン) ・太白自立訓練事業所見学会 ・仙台市障害者自立支援協議会地域部会	・職リハ研究発表宮城大会(オンライン) ・仙台市障害者自立支援協議会(オンライン)	・企業連携(zoom)	・脳障害になった時あるといい知識 ・高次脳機能支援者ステップアップ研修 ・AKG(zoom)	・障害者学生支援と就労移行に関する情報交換会 ・宮城県高次脳機能障害者支援普及事業 第一回専門研修会	・精神科基礎セミナー ・高次脳機能障害全国事業所職員ネットワーク研修会 ・AKG(Zoom)	・宮城学院女子大学施設見学会 ・日本高次脳機能障害者の会オンライン全国大会 ・就労移行支援事業所等連絡会議 ・宮城県高次脳機能障害者支援普及事業 第二回専門研修会 ・仙台市障害者自立支援協議会 第2回地域部会 ・サポネットあおばのつどい	・就労定着意見交換会 ・定着支援地域連携モデルに係る調査事業J事業報告セミナー ・仙台市障害者自立支援協議会 第2回地域部会 ・AKG(Zoom)	・よめご会議 ・なごやかネット
その他			宮城障害者職業能力開発校委託訓練(6/22~9/21)→申し込みなし					宮城障害者職業能力開発校委託訓練(9/28~12/21)→申し込みなし				

## 2022年度（令和4年度） 就労定着支援センターほっぷの実事業報告

### 1. 利用者実績状況

2022年度は年間19名の支援を実施（昨年度は16名実施）。ひと月当たりの平均利用者数は14.7名（昨年度は12.6名）であった。16名が就労支援センターほっぷ（以下ほっぷ）、2名がびすた〜り（Olive）、1名が他事業所からとなっている。新規利用開始者は4名で、いずれもほっぷからの就労者。相談支援事業所が関わっている方は7名。

定着支援利用終了した方は7名。内6名が就労定着支援期間終了し、わ〜く、はたらぼーと仙台、障害者職業センター、ウエルポート仙台に繋いだ。1名は離職のため利用終了。

### 2. 支援実施状況

ほっぷからの就労者は、ご本人やご家族、就労先に最初の6ヵ月間はほっぷ（就労移行）でのフォローアップを実施。状況の確認をしながら、ほっぷの実（就労定着）での支援に繋げていけるようにした。しかし、支援の実施開始時期が利用確認のための面談や手続き等で7ヵ月目に開始できない方がおり、必要な方への面談や手続きの段取りが課題として見られたため、時期を逃さずに計画を立てて行くことを今後さらに意識して取り組むこととした。

今年度、コロナウイルス感染症の影響で、就労先の介護施設への訪問が出来ない月もあったがご本人とはっぷの実での面談を実施。他は感染対策を講じながら訪問、支援を実施した。

月1回から数回、その方の状況に応じながら、ご本人との面談や就労先の方からの聞き取り、必要に応じてご家族や相談支援事業所と情報共有し、通院先とも関わりながら継続した就労に努めた。仕事・生活面での環境や症状の変化により、働き方の相談や関係機関との連携も行った。

今年度も雇用契約期間が終了となる方に、転職後も継続して支援を繋げられるように、早めに就職活動支援を実施し、期間が空かずに転職でき、定着支援も継続する事ができた。

精神的不調により休職していた方は、ご本人の働き方の変更の希望もあり、復職せず退職。相談支援事業所と相談しA型事業所利用となった。

昨年度は、就労定着支援期間終了者は2名だったが、今年度は6名。内2名は安定した就

労に繋がっているが、他の4名は障害特性で課題や支援の必要性がある方、雇用期間の終了予定の方もおり、ニーズに合った繋ぎ先の検討が必要であった。早めに関係機関に相談をしながら、それぞれ引継ぐことができたが、できるだけ、支援期間内で安定した就労生活に繋がるよう、期間の意識やご本人や企業側の不安の軽減に繋がる支援の必要性を感じた。

### 3. 職員研修

特定非営利活動法人ジョブコーチ・ネットワーク実施のJC-NET ジョブコーチ養成研修受講。

### 4. 他機関との連携

支援期間終了後の繋ぎ先としては、ナカポツである障害者就業・生活支援センターわ〜くが主となっているが、個々の必要性（ニーズ）を見極めながら、ご本人の継続した就労につながるよう、日頃から、わ〜く以外に仙台市障害者就労支援センターや、宮城障害者職業センター、相談支援事業所等と情報の共有や相談をし、スムーズな支援の継続のための連携に心がけた。

就労定着支援センターほっぷの実  
管理者 平山 昭江

## 2022 年度 TFU（令和 4 年度） Cafeteria Olive 事業報告

## TFU Cafeteria Olive

今年度もコロナウイルス感染予防の為、学生及び教職員の方々、館内利用のお客様に限定された営業となり、雇用調整助成金を申請しながらスタッフの雇用を維持する 1 年となった。スタッフ 16 名の内、自宅での在宅支援（1 日 8 名程）、びすた〜り榴ヶ岡での仕事（1 日 4 名程）、オリーブでの面談や準備トレーニング（1 日 4 名程）、公休（2 名程）。スタッフそれぞれの希望を伺いプログラムを組み細やかな対応を心掛け取り組んできた。コロナ禍 3 年目、誰一人欠けることなく 1 年を過ごすことができたこと、スタッフの頑張り、パートナーの頑張りを強く感じる 1 年となった。

レストランとしては館内利用の方限定でのお弁当、料理提供の為、売上を伸ばすことができず、スタッフに仕事として入ってもらうことが難しい状況が継続して続いた。ネットでの真空包装料理など行って来たが、仕入れ価格高騰により販売価格の値上げなどもあり、販売数が伸びず今後の販売方法を検討していきたい。

## びすた〜り榴ヶ岡

昨年の売上 8,811,890 円に対して、今年度売上 13,232,670 円（前年比 150%）。大きく売上を伸ばすことができた。ランチタイムに関しては近隣の会社の方が全体の 6 割程。リピーターも増えてきている。日替わりランチ 800 円（メイン料理、サラダ、小鉢、ご飯、みそ汁）お肉やお魚の日替わりばかりでは無く、ラーメンや冷やし中華、ハンバーガー、牛スジうどんなどバラエティー豊かなメニューを提供。ランチタイムを楽しんでいただいた。年間利用人数 8,100 名（昨年度 6436 名）、稼働日 257 日（昨年度 257 名）、1 日 31 名（昨年度 25 名）。ゆっくり食事を楽しみたい方へのランチとして@2,000 円セレクトランチを提供。ランチメニューも予約無しでお弁当としてお持ち帰り可能とした。

お弁当の予約も伸びており、館内会議室利用のお客様や、学校、病院、保育園、会社への配達も多くなってきている。事前準備が可能な為、おかず仕込み、盛り込みなど、一定の流れで行うことができスタッフが積極的に関わられる環境が整ってきている。

貸切件数 43 件（コンサート 33 件、土日祝のティータイムと夜コンサート可）。今後夜の貸切も増やしていきたい。

TFU Cafeteria Olive

管理者 菊田俊彦



## 【スタッフの活動について】

2020年4月から始まった東北福祉大学仙台駅東口キャンパス閉館によるレストラン休業が今年度も続いた。長い長い休業の中、びすた〜り榴ヶ岡の営業が出来ていることで、代わる代わるではあるがスタッフ達が「仕事をする」という感覚を維持することが出来たことは非常にありがたいことであった。Oliveは福祉大の取り決めに従い

- ① 大学職員、学生のみ予約制弁当と店内飲食
- ② 福祉大で再開したギャラリーミニモリの展示にいらしたお客様の入店
- ③ 予約でのティータイム貸切営業（MAX 27名、ガーデン側入口からのみ入店）
- ④ ガーデン側入口から入っていらしたお客様の入店

と、かなり細かな段階を踏みながら徐々に受け入れ可能なお客様が広がっていった1年であった。スタッフが全員揃って仕事をすることは叶わなかったが、スタッフ達は昨年同様3年目を迎えた在宅支援サービスを利用しながら、それぞれの目標に向けた活動を続ける1年となった。

### <在宅支援>

Oliveでは9:30~16:30の活動。1日のスケジュールに沿ってこちらから提示した課題に取り組む。1日2回朝・夕2回の電話での体調確認や活動内容に関する連絡を行い、緊急時や困った時は随時対応。活動に関しての日報や支援記録の作成。月1回以上の通所で目標の確認や評価を行う。

日々の体調管理や困りごと等をサポートすることで以前と変わらず給付費の請求も可能。

1. スタッフに合わせたそれぞれの働き方 ※10月~全員が週1回以上1日勤務となった

①働いてリズムのある生活をしたいスタッフ(11名) → びすた〜り榴ヶ岡で週2~3日程度6~7時間勤務。実際にお客様の顔を見ながら仕事し、充実感と緊張感のある生活を送った。

②自分の目標に向き合いながら課題を通して在宅のみで活動をするスタッフ(5名)

→週2~3回、営業再開に向けて「Open準備トレーニング」として実際に通所し1~

2時間の作業（調理場内での作業や清掃、コーヒー焙煎、事務補助、オンライン体操教室への参加等）や、面談を行った。いつ営業再開になっても出勤出来るような体力や集中力を取り戻すことを目標とした。

#### Olive 在宅課題の例

食事記録、体力作り（ストレッチ、ウォーキング、運動等）、食材や調理・珈琲の知識・飲食店の知識や接客について、自立に向けて料理レシピ作り、ほっぷ研修としてほっぷのプログラム参加、就職に向けての活動（ハローワークインターネット検索、ハローワーク活動、一般常識等）、PCテキスト(Excel、Word、PowerPoint)、自分の特性について、指先トレーニング（ハンコ押し、塗り絵、切り絵、握力）、苦手分野の勉強（漢字、数学、書字、語彙を増やす）、発音・早口言葉、脳トレ等。  
積極的に動ける方は「自主課題」としてテーマを決めて取り組む(コーヒーについて、食べ物と飲み物のペアリング、体幹トレーニング、手話、健康について等)

③専門性を極めたいスタッフ(1名) → 週1日 Olive に出勤しコーヒーの自家焙煎や管理、BGMの構成等を担当。営業中はなかなか進めづらい作業を1日集中して行なった。

④昨年度の健康診断で生活習慣の見直し(主に食事や運動)が必要となったスタッフ(5名) → グループ名を「スマイル部」とし次の健康診断までの目標をそれぞれに掲げた。ダイエットに関する日々の取り組みを仲間と話したり、情報を共有したり、秋には榴ヶ岡公園で体を動かしたりと小グループではあるが、同じ悩みをもつ仲間とコミュニケーションをとり、チームとして団結力を育む有意義な時間となった。

8月～12月まで活動。

⑤思い切り体を動かしたいスタッフ(3名) → 月2日程度（6時間勤務）の施設外就労で畑作業を行った。（※びすた～りの営業も忙しくなり、またパートナーの産休で人員的に同行が難しくなったこともあり7月にて一旦終了となった）

## ⑥ほっぷ研修への参加（2名）

在宅課題の一部として「栄養管理講座」「リズム体操」「文章表現」「姫プログラム」等に参加

## 2. 1年間の動き

- <4月> びすた〜りでは榴ヶ岡公園のお花見シーズンとなり、かなりの忙しさとなった。2年目を迎え、力を付けたスタッフ達が60名近いお客様に対応することが出来た。
- <5月> 福祉大職員の Olive 店内飲食が可能となり店を開けることが出来た(11:30～13:30) まだ1日勤務となりうる仕事量ではない為、パートナーのみで対応。営業と在宅支援での活動は異なる為スタッフ達は営業時間を除いた時間で実践トレーニングとして弁当準備のみに関わった
- <6月> 福祉大職員・学生に向けたお弁当予約システムを利用し、就労支援センターほっぷへのお弁当配達スタート（味噌汁無し¥500）びすた〜り勤務のスタッフが朝 Olive へ出勤し、ほっぷへ弁当を配達してからびすた〜りへ戻り仕事を行った。弁当を入れたリュックを慎重に背負い、体力作りも兼ねた仕事となった。
- <7月> 2年程継続していた株式会社 MITU 様での施設外就労（畑作業）を終了。今後は畑作業で得た体力をびすた〜り調理場での仕事に生かすことにした
- <9月> びすた〜りでは ICT 活用助成金事業として iPhone や iPad を利用したオーダーシステムを導入した。
- Olive では福祉大のギャラリーミニモリでの展示が再開したため、展示で入館したお客様と学生に対応する営業がスタート（展示期間中は日曜営業あり、ティータイムまで営業）展示期間中のみ、代わる代わるではあったが、ようやくスタッフの1日勤務がスタートした。これにより、びすた〜り4名、Olive 3名で1日計7名のスタッフが仕事をするようになった。その他のスタッフは在宅支援での活動を続けた。

<10月> Olive では展示がない期間も学生の受講が多い土曜日のみ、調理場2名ホール2名のスタッフを出勤とし活動。2年半ぶりに仕事をするスタッフもいて少しずつ営業再開に向けて仕事の感覚を戻していった。「1日で疲れた」と言いながらも皆とてもいい表情で仕事していた。また予約でのティータイム貸切が再開。

びすた〜りでは夜貸切が増え、夜営業に対応出来るスタッフも出てきた。

<11月> 2つの店舗での仕事となり、スタッフ達に今後 Olive、びすた〜りどちらをメインに働いて行きたいか意思確認を行いシフトに反映させてた。それにより、びすた〜り専属スタッフは4名、Olive 専属スタッフは5名、その他7名は Olive・びすた〜り兼任となった。びすた〜りでは9月より参加していたプレスアート主催のランチパスポート（デザートで参加）の反響が大きく、福祉大の展示も続きコーヒー焙煎も忙しくなった為、焙煎担当のスタッフの出勤日数を増やすことになった。

<12月> 年末年始の休暇中に初のスタッフでのコロナウイルス陽性者が3名ほど出た。いずれも家族からの感染であったが1週間の休み中であった為感染拡大はせず、年明け元気に復帰出来た。

<1月> Olive はガーデン側入口から一般のお客様の入店が可能になった。びすた〜りでは当日予約なしで選べるセレクトランチ（¥2,000）や調理場スタッフが考えたメニューを日替わりランチに採用するなど、力を付けたスタッフが活躍出来る環境が出来て来た。

<2月> びすた〜りでは混雑時や時間のない時もお客様に利用していただけるよう、ランチメニューをそのままテイクアウトで提供。お客様のイレギュラーな要望にもスタッフ達に対応できる力が付いてきた。導入していたオーダーシステム（iPadの操作等）をスタッフ達も出来るような取り組みを始めた。

<3月> Olive では展示期間ではない日もスタッフ4名が毎日出勤することになった。びすた〜り出勤も含め全員が週2〜4日、1日勤務出来るようになり、それぞれがフルオープンに向けて働く体力を取り戻したり、仕事をする上での体調管理や、生活リズムの見直しをする準備期間となった。

### 3. その他

#### ①職員研修

計画に基づき 2022 年度は職員全員で研修に参加した。オンデマンド配信での研修も多く、昨年同様パート職員も仕事の中で時間を作り学ぶことが出来た。また研修参加の実績が次年度給付費算定スコア表の点数 UP に繋がった。

- ・アーチル発達障害専門講座 行動障害の対応と配慮点（オンデマンド） 2名
- ・新型コロナウイルス感染対策研修（Zoom） 1名
- ・8050 世帯の支援～親子の安心した生活を支えるために～ 1名
- ・アーチル発達障害基礎講座（オンデマンド） 4名
- ・高次脳機能障害基礎講座（オンデマンド） 1名
- ・自立訓練（生活訓練）における高次脳機能障害支援（Zoom） 2名
- ・障害者虐待防止基本研修（Zoom） 1名

#### ②健康診断の実施 2023 年 1 月～2 月実施。

今後、生活習慣病につながるような数値の出たスタッフも多く見られた。

結果を念頭に置き日々の支援の中で気になった時は声掛けしていくきっかけとなった。

#### ③避難訓練の実施 6 月、1 月実施（東北福祉大学、みやぎ NPO プラザと合同）

TFU Cafeteria Olive

サービス管理責任者 高桑純子

2022年度 びすた〜り榴ヶ岡 お弁当予約数

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	
	お弁当単価	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数	金額	個数
800	39	31,200	0	0	153	122,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	28,000	227	181,600
1,000	38	38,000	9	9,000	32	32,000	78	78,000	132	132,000	32	32,000	75	75,000	27	27,000	135	135,000	41	41,000	71	71,000	94	94,000	764	764,000
1,500	23	34,500	23	34,500	0	0	33	49,500	57	85,500	12	18,000	10	15,000	70	105,000	56	84,000	14	21,000	10	15,000	135	202,500	443	664,500
2,000	18	36,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	32,000	91	182,000	9	18,000	0	0	0	0	134	268,000	
2,500	0	0	0	0	0	0	10	25,000	5	12,500	0	0	0	0	0	0	11	27,500	7	17,500	0	0	35	87,500	68	170,000
合 計	118	139,700	32	43,500	185	154,400	121	152,500	194	230,000	44	50,000	85	90,000	113	164,000	293	428,500	71	97,500	81	86,000	299	412,000	1,636	2,048,100

2022年度 びすた〜り榴ヶ岡 貸切営業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
貸切営業	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数
コンサート	6	3	1	3	3	4	3	4	1	1	2	2	33
会食	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2	4	10
合 計	6	4	1	3	3	5	3	4	3	1	4	6	43

## 2022年度（令和4年度） びすた〜りフードマーケット事業報告

2022年度は、昨年度から引き続き、コロナウイルス感染防止対策をしながら過ごし、後半には、少しずつ個々の生活の中で、気を付けながら動き出し始めているスタッフが増えていた。

フードマーケット、JhoJho それぞれ施設内では、スタッフが密にならないように、時差を作りながらの活動は継続し。出勤前（家庭で）検温、手洗い、マスク、消毒、換気などは継続した。その成果もあり、感染を防ぐことができ、両施設とも運営も通常どおり継続できた。

感染人数を気にして在宅支援を希望していたスタッフも、ご家族と相談し通所にもどることができた。

スタッフの利用状況として、8月に1名移行支援へステップアップのため退所、1名入所で在籍は22名で推移した。今まで毎日通っていたスタッフ（JhoJho）が、通えなくなるケースもあり、それぞれ通所も日数、時間数はそれぞれに合わせて対応した。特に、対人面で困難さがあるスタッフについては、休みがちになってしまい、在宅支援で対応するケースとなった（コロナ対応以外では初めてのケース）。個々にいろいろなケースが増え、支援機関と連携が必須となった。

畑作業を希望する学生さんが減ってしまい、新たな担い手がなかなか難しいと感じる中、2023年度に向けて畑を希望する体験が入り、光も見えつつ2022年度を終えた。

びすた〜りフードマーケット  
サービス管理責任者 伊藤敬子

【2022年度スタッフ在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均出勤人数	
入所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		19.3
退所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	19.3		
在籍合計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22		19.3	
平均利用人数(日)	19.9	20.2	19.9	18.7	18.4	19.4	19.6	19.3	18.3	19	19			19.1
退所内訳					移行支援へ									

【2022年度3月末現在年齢別在籍数】

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	4	4	1	1	3	13
女性	0	5	2	0	1	1	9
合計	0	9	6	1	2	4	22

(2023年3月現在)

びすた〜りファーム野菜(野菜、筍、筍ご飯の素)、総菜他売り上げ。

	野菜 (店舗、Jho)	たけのこ	筍ご飯の素	惣菜 (店舗、Jho)	デザート (店舗、Jho)	ジャムなど (店舗、Jho)	漬物 (店舗、Jho)	オードブル他 特別注品
2017年度	¥469,584	¥65,290						
2018年度	¥446,765	¥235,580	¥21,200					
2019年度	¥373,061	¥171,540	¥30,400					
2020年度	¥266,410	¥156,090	¥48,050	¥278,630	¥140,600	¥37,600	¥104,410	¥89,000
2021年度	¥361,263	¥133,090	¥52,330	¥214,110	¥185,400	¥31,750	¥57,450	¥70,200
2022年度	¥256,822	¥241,340	¥41,050	¥267,173	¥251,550	¥25,500	¥74,430	¥12,000
備考		表年かなりの豊作生・水煮		筍ご飯、冷凍総菜を含む	FM,JhoJho 手作り	ジャム、ソース、ドレッシング		お弁当等



## 1. 畑作業

スタッフの高齢化に伴い、作業量の減少傾向も避けられない問題ではあるが、中(なか)パートナー補助(週2日)の加入により作業効率の安定につながった。

MITUの施設外就労は、毎週火曜日(11時～15時)に変更となり実施中。Oliveとの合同作業も終了、畑スタッフの退所等で要求を満たせない場面も出てしまいMITU側にも了解していただきながら作業を継続している。

### ① 栽培

富田・河原の畑(板橋さん所有)と柳生の畑(守屋さん所有)で栽培を行っていたが、行き届いた管理と効率的で良質な作物を収穫できるように、柳生の畑に集約して栽培した。使用していない畑は、近隣の畑に迷惑が掛からないよう定期的に草刈りを実施した。

3月から12月までは畑作業。1月～2月下旬までは竹林の整備。4月下旬頃から筍の収穫を行った2022年度は表年(豊作)ではあったが、過去まれにみる大量の収穫量となった。

### ② 収穫

玉ねぎやじゃがいも、葉物などの定番野菜の収穫量は安定している。保管場所などの課題はあるが、販売用と調理用のバランスを取りつつ、各部門で連携を図りながら収穫した。

大根、人参などの収穫も多く、土中保管や干すなどの加工(へそ大根、切り干し大根など)も行い、無駄のないように使用することができた。

### ③ その他

三浦農園の芹田にザリガニが大量発生したため、ザリガニ捕獲の手伝いにいった。

## 2. 店舗

昨年度に引き続きコロナ感染防止のため消毒液の設置、店担当者のマスク着用、店舗ドアを開放し換気をしながら営業を行った。

8月中旬より、ICT補助金活用によりレジが新しくなった。バーコードでの読み取り

もでき打ち間違えなどを防ぐことができたが、食品の値上げが頻繁になってしまい、登録が間に合わないこともあり、スタッフの仕事として使用させることが難しかった。月の部門ごとの売り上げが明確になり、事務作業の軽減につながった。

## コンセプト

びすた〜りファームで収穫した農薬化学肥料不使用のおいしい野菜を提供、販売。  
近隣の農家さんから仕入れた野菜の販売を行う。

### ① びすた〜りファームでの収穫状況の確認

収穫した野菜を調理用と販売に選別、バックヤード調理場と連携し B 品は調理で使用する。(筍の豊作により、ご飯の素、JhoJho での惣菜豊富に使った。)

### ② 店舗担当スタッフ

店舗の掃除、品出し、値付け、検品などお互いに得意なところを担当しながら行った。気持ちの波、仕事への集中力など、様子がかわってきたため、ポイントを知らせながら仕事をお願いした。

仕入れ業者様の納品書の整理作業も店舗の仕事として定着し、パートナーの仕事の補助となった。

### ③ 外販、移動販売

木、金の引き売り継続して行った。顧客が決まっている為、スタッフも回りやすい。歩きながら購入して下さるお客様もいた。ただ、年度途中で定着していたお客様が引っ越しされたりと売り上げ減となってしまった。

イベント等は 2022 年度もコロナの影響によりすべて中止や不参加だった。(不参加については、外販をすることで多数の方と関わりコロナ感染となった場合、通常の店舗、JhoJho の営業に支障が出てしまうことが予測されたため)

### ④ 仕入、販売商品

フードマーケット冷凍総菜・ジャム・漬物、焼き芋

・決まったお客様が購入することが多かった。冷凍庫等外からは見えない状態のため、今後は工夫をして行く。

・補助金で購入した、焼き芋機を使用し、焼き芋販売を開始した。農薬不使用のサツマイモがほぼなくなってしまっていたが、大家さんより市場で仕入れてきていただけただけで、継続的に焼くことができた。燃料のプロパンガスが高く、効率よく焼けるよう工夫した。

オーサワ商品

・毎月発注し。固定客の方には事前に連絡をして注文を聞くようにした、近くの方には配達を行った。(車)

戸叶農園さん

・昨年度から継続して、直接受け取りに行く形となり、色麻町のため、なるべく売れ筋の物やお米、豆などを仕入れた。

赤路農園さん

・畑を手伝いながら、季節物として、青梅、柿などお知り合いから譲っていただきながら販売につなげた。

※赤路農園さんと戸叶さんはなるべく同じ日に対応できるようにした。

小林農園

・畑で大量にできた野菜をその都度仕入れた。ファームとダブル野菜もあったが、イチジク、里芋など、ファームにはないものも提供していただいた。

山路農園（主に慣行栽培、レタスなど農薬不使用や減農薬のものもある）

・夏場に慣行栽培ではあるがきゅうり、オクラ、ナスを定期的に仕入販売は定着した。

・大量に取れ過ぎた、規格外のオクラ、ナスは詰め放題を実施し好評だった。

・規格外の玉ねぎを知り合いの農家さんにも声をかけていただき、大量に仕入、調理用として利用した。びすた〜りやoliveへも卸すことで、痛めてしまうことなく使い切ることができた。

### ⑤ 季節の商品

- ・筍は表年で豊作だったため、毎年定着したお客様が、生筍や水煮がたくさん売れた。大量だったこともあり、ゴールデンウィークには、びすた〜り榴ヶ岡店にも協力していただき、店舗内で販売していただいた。
- ・梅は、柳生だけでは足りず、赤路農園お知り合いより仕入れた、梅干し、梅ジャム、梅ジュースの加工し販売したり JhoJho のメニューに入れて提供した。梅干しが少しずつ売れ始めた。
- ・柿は、柳生、赤路農園お知り合いより仕入れ、干し柿用として販売したり、昨年からの好評だった干し柿チップを大量に作り、看護師さん達にたくさん買っていただけた。
- ・セリは、久しぶりに年末販売ができた。年明けは、田んぼにザリガニが大量発生したことで、仕入ストップとなり、春より再開した。

## 3. フードマーケット調理場

### ① JhoJho の料理、惣菜作成について

JhoJho の売り上げ増のためにフードメニューを増やすことも検討したが、食材全般と光熱費の値上がりへの対応を優先した。メニューを増やすためには仕込みから提供まで今まで以上にスタッフのスキルアップや効率よく提供する方法を考えていかなければならないため今後の課題として検討していく。メニューを増やす代わりにお客様からリクエストのあった真空冷凍された坦々麺ソースや、煮込みハンバーグ、季節野菜を使った漬物などの惣菜は一定数の販売が見られた。パナコッタなどミニデザートも売り上げ金額としては少ないが昨年度の 1、5 倍から 2 倍ほど安定して売り上げている。

### ② 調理場内のスタッフの作業について

フードマーケットの調理場で作業するスタッフは昨年度と変わらないが、それぞれ安定して仕事をしている。包丁を使って野菜を刻む作業も口頭の指示だけでできその出来栄も良くなっている。また HACCP の記録も忘れずに記入してくれて大

いに助かっている。

### ③ 売上向上とコスト削減などへの取り組みについて

原材料高騰への対応策としてランチメニュー作成での肉、魚の主材料の使い方を工夫した。具体的には揚げ物の回数を減らし油を節約する事、肉、魚の一人当たり使用量を減らす代わりに野菜を増やし料理自体のボリュームや見栄えは変わらないようにした。こうした積む重ねで食材原価を抑えるようにした。また畑での収穫作業やバックヤードの作業との連携をこれまで以上に図り、作業効率の向上と野菜を主に食材の廃棄ロスの減量につとめた。

## 4. バックヤード

今年度は新規利用者はおらず、みんな作業や流れについてもわかってきている。階段の上り下りに関しても、自分で買い物かごを準備して危険のないように降りるなど自発的に行っていた。

作業の際の準備、片づけ（椅子の片づけ、机の移動、ビニールシートの準備など）も極力スタッフが自主的に進めるように心がけた。自発的に動くことが難しいスタッフに対しては最低限の声かけ、重いものを持つのが難しいスタッフには机拭きやシートたたみなどスタッフの特徴に合わせた作業を行うようにした。

### ① 収穫、仕入れた野菜・・・選別、計量、袋詰め、値札貼り付け作業など、スタッフで分担して作業を行った。

選別は大まかな選別から細かい選別まで、スタッフの能力に応じて流れ作業で担当してもらい、最終的にパートナーが最終チェックを行うよう心掛けた。

計量の重さが分かりづらいスタッフに関しては範囲を指定し、その数字をメモ用紙に記入して同じ数字になるように声かけした。計量後に何をするかなど自分で把握しており、袋、値札などを自分で準備することが出来ていた。その為、パートナーに声かけする際も「何をすればよいか？」という受け身の問いかけから「～をしてもよいか？」や「値札はこれでいいか？」などスタッフから提案するような質問が

増えてきた。自分から発信することが増えてきていることを評価しつつ、独断で進めてしまわぬよう、「ほう・れん・そう」が出来るように今後支援していきたい。

袋詰めに関してはニラなど途中でバラバラになってしまうものが袋からはみ出たまままで終わりにしている時もある為、今後も新聞で包みながら入れるなど練習していきたい、きれいな仕上がりになるようにしていく。

#### ※セリ

今年度は販売用のセリを入荷することができた。仕入れ量は少量だが、久しぶりに選別作業をスタッフにお願いし、販売用に計量もお願いした。しかし、以前よりも価格が高くなったこともあり、売れ行きは芳しくなかった為、売れ残った分については調理用でどんどん使ってもらった。

いな穂への配達今年度も継続し、配達するスタッフも一名新たに挑戦し、二人組で配達を行った。一度二人がはぐれてしまったことがあった為、お互いにスマホを持つこと、はぐれた時はバラバラになってもいいのでそれぞれほっぷへ向かうことをルールとして決めた。

#### ② JhoJho 食材用野菜の下処理

野菜の皮むき、セリの根っこ切り等。選別や計量よりも好きなスタッフが多く、積極的に引き受けてくれた。必要な道具なども準備し、すぐに取り掛かることが出来ていた。今後の課題として、どうしても時間を気にせずマイペースで進めてしまうことが多いためある程度の時間に間に合うよう取り組める支援を考えていきたい。

#### ③ 内職作業・・・今年度はなし。チラシの折り込み作業の内職の打診があった、今後依頼が来る可能性あり。

#### ④ フェルト手芸（野菜や亀のストラップ）刺し子布巾、個々の得意な分野での作業として取り組む

→今年度は得意なスタッフがあまりいない、その他の作業があったためほとんど行わなかった。

## ⑤ 袋の作成

収穫物が多い時期などにはまとまった量を作れないため、野菜の作業が少ない時期に作りだめをしておく。工程の最後まで折ることが難しいスタッフには工程を分け、途中の簡単な折り作業までを担当してもらうようにした。スタッフ毎に得意な工程があるため、それを活かして効率よく作っていくことができた。また、JhoJho の売店で使用する紙袋も種類を増やし、取っ手付きの袋も作るようになった。新聞紙を加工する工程が増えたので、今後出来るスタッフを増やして協力して作っていきけるようにしたい。

## ⑥ その他

- ・作付け用の種まき…今年度はなかったが、浅利 P が駐車場でプランターを使ってハーブを栽培しており、それらの世話などを頼まれた S もいた。今後も継続して行っていきたい。
- ・外冷蔵庫掃除、駐車場草取り…定期的に実施。

## 5. C a f e J h o J h o

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、継続して営業を続けることができた。

感染者数に関わらず席数は減らしたまま営業し、感染防止対策をしっかりと行った。

対策としては前年度同様アルコール消毒設置（入り口、持ち帰りカウンター、ホール中央）、席数を減らしテーブル配置の変更、ごはん・味噌汁のセルフサービスの廃止、対面シールド設置、お客さま入れ替えごとのテーブル・椅子の消毒、伝票記入用鉛筆の消毒、出入り口取っ手の消毒、空気清浄加湿器設置、換気、マスク無しでの会話を控えるよう掲示と呼びかけを行った。休憩室も席数を減らし同時入室人数を調整、対面シールド設置、消毒液の設置、空気清浄加湿器設置、食事中以外のマスク着用の徹底を行った。更衣室利用も複数人での使用を禁止とし、適時消毒作業を行った。

検温は、自宅と JhoJho での検温をお願いし表に記入するほか、朝礼時にパートナー

が検温し体調の確認を行った。

作業後の休憩室での密も避けるように時差退勤をした。

## ① 利用状況

感染者数の増減による利用客の変動は少なくなった。

しかしながら前年度同様、感染防止対策での席数減や作業内容によりランチタイムは忙しく動き回る日も多かった。繁忙時間は店内入り口も混みあうため、換気も兼ねて、店舗入り口ドアを開けておくことで、入店を迷っているお客様へお声がけしやすいようにした。

お席待ちのお客様に関しては、事前に注文を取ることで席に着いたらすぐに提供されるのが浸透しているため、待たずに帰るお客様はほとんどいなかった。

アレルギーがあるお客様や糖質制限をしているお客様に他メニューのお食事を準備したり、ごはんの代わりにサラダを付けるなどお客様が離れないよう柔軟な対応を行った。

デザートの種類は定着し、お席でのオーダーやテイクアウトも増えた。名前だけではわからないお客様も多く都度パートナー対応で説明をしていたため、写真と説明文を書いたPOPを客席に貼ることでお客様もスタッフもわかりやすくなった。

売店利用は、はなみずき入居の常連のお客様、一般のお客様、職員様にもご利用いただけた。ごはんの共になるような漬物・梅干しや、焼き芋、チーズ、駄菓子、パックジュースの購入が多かった。特にFMで作った柿チップは大人気だった。

はなみずき入居者の方の他にも、ご高齢のお客様も多く、物忘れなども増えており必ずメモを取ったり、お席での先会計などを行いトラブルを避けた。

お席に着く際にパートナー対応が必要なお客様もおり他のお客様への対応がおろそかになったり、料理やドリンクの提供が遅れるなど苦情にならないよう努めた。

## ② スタッフの状況

8月中旬に1名利用開始となる。精神科退院直後であること、グループホームに入居したばかりであること、福祉的就労が初めてであることも含め慎重に様子を見



る必要があった。週2回の2hからのスタートで、出勤日を増やしたり時間を延長することは主治医と相談していただきながら進めた。3月末現在で週3回（月→3h、水・木→4h）で出勤している。

3月末現在、JhoJho 専属スタッフは毎日出勤のスタッフが3名、週4出勤のスタッフが1名、週3出勤のスタッフが3名の7名。FM から火曜日のみ JhoJho フル出勤スタッフが1名、FMから1h助っ人スタッフは前年と同様5名であった。

9月に実習を行った方の来年4月からの利用が決まった。

精神障害をお持ちのスタッフは1年を通して不調が続き、欠勤や早退、出勤してみたものの食事を摂るのみで作業は難しく帰宅（病院へ行く）することが続いた。

調理場スタッフは、年齢的なこともあり体調を崩し欠勤や入院することがあったり、フルでの出勤が難しくなり出勤日や時間を減らしたりしたが退所はせずに通っていただいている。

スタッフ配置人数状況 （3月末現在）

	ホールフル	調理場フル (短時間)	パントリー洗い物 12時半～15時	FM助っ人 12時～13時
月	3	1 11～14 1	1	1
火	3	1 10～13 1		2
水	3	1 10～14 1 10～13 1		2
木	3	1 10～14 1	1	3
金	3	1 10～13 1	1	1

安定して通所出来るスタッフ、目標日数通りに出勤が難しくなっているスタッフ、体調の変化があり休憩をするスタッフがいる中、任せられる仕事を増やせるように

新しい作業にも挑戦した。一人ひとりしっかり力を付けることができた。出来る事が増えたことで負荷がかからないように繁忙時間帯以外は自分のペースで休憩の回数・時間を決めて無理のないように過ごしている。

JhoJho 在籍スタッフ一人ひとりの作業量増加やスピードアップは現状をキープすることが目標となっている。

また、週5日通うことが出来ない方、精神的な部分で体調が安定しない方もおり、FMのスタッフ・パートナーの力を借りなければ難しい現状は変わらない。

フル出勤ではないが、急務であった調理場勤務スタッフの増員ができた。パートナーが行っていた作業もお願いすることが出来ている。

### ③ ホール・パントリー

お肉とお魚はご飯・味噌汁がお盆に載った状態の配膳はホールスタッフ1名のみ配膳を任ているが、JhoJho セットも配膳できるようになったが、荷物が多いお客様やテーブルが狭い場合などは前年同様パートナーが配膳した。

ご飯・味噌汁のお替りのお客様へ丸お盆でお持ちすることは今年度も練習し任せられるようにはなったがまだ不安があるため、すぐにフォローできるように近くまで一緒に行き声掛けを行った。

お客様の様子や荷物の置き場所などの状況に合わせて注意点や声掛けの仕方などを伝えながら配膳をお願いした。

パントリーでの洗い物は、担当のスタッフが休みの時はパートナーとホールスタッフで手分けをして作業している。

オーダー読み・食事出しとドリンク・デザート出しの作業は今年度もパートナーが行ったが、場合によっては直接調理場に伝票を渡したり、調理場から直接お盆を受け取って配膳したりと出来ることが増えた。

外を歩くことでリフレッシュできる方にはフードマーケットに行って野菜や売店販売商品を持って来てもらう（JhoJho 便）。

座って文字を書いたり色を塗ることが好きな方には、伝票の色塗りや値札切りなど。一つの作業の継続が難しい方には何種類かの作業を準備し選びながら作業し

てもらふことは継続して行つた。

8月より新しいレジを導入した。操作は今まで同様パートナーのみで行う。慣れるまでは混乱もあったが集計や月末処理は行いやすくなった。

#### ④ 調理場

メニューは継続し日替わりの肉、魚セット500円、定番として、カレーライス、う～めん450円、う～めんダブル500円を提供している。

ランチ前の時間にご利用いただける「鶏がゆ」と「トーストセット」は多くは出ないが楽しみに来てくれるお客様もいた。

単品でのご注文や、ソースなし、汁を薄めて、酢を付けて、細かく切って…など対応できる範囲でお答えすることが継続してできている。

ごはんと味噌汁をよそう作業は、ご飯の量の指示が細かく味噌汁も多めの注文や、おかわりもあるため対応力とスピードが求められ、スタッフには難しくパートナーが対応していたが、新入所スタッフの出勤日にはお任せすることが出来た。

準備、盛り付け、計数、片付けなど一日の作業をスタッフが行えるようになったためお任せしているが、最終確認はパートナーが行つた。

メイン料理の盛り付けでは、個包装になっているものはスタッフ1人でも盛り付けが出来た。

大袋で計量しながらの作業は、種類が一つだと計量しながら盛り付けることが可能だが、複数種類が入っていると肉だけや野菜だけのように偏ってしまうため難しかったためFMと相談しながら出来るだけスタッフが作業出来るようにした。

スタッフの仕事として野菜の皮むきやカット作業をFMと連携しながら用意できるようにした。

また、味噌汁の具材作りなども行つた。

衛生面に関しては、手洗い・消毒の習慣が出来てきており作業途中の声掛けでも出来るようになったが、洗ひ方はパートナーがからの声掛けがないと指先を

水に触れさせるのみで終わらせてしまう。

同じ皿や箸を使ってしまうため、使い終わったものを置く場所を明確にして使い回しをしないように徹底した。

HACCP の記録をスタッフの仕事にすることで衛生面を意識し気を付けていけるようにした。

#### ⑤ 新型コロナウイルス

パートナーやパートナーの同居家族の陽性で、オリーブからの手伝いで助けていただいた。

感染が広がることはなく、お店を閉めずに通常営業することができた。

病院様とも状況報告を行いながらご理解いただき営業を続けることができた。

スタッフも通所出来たが、2名は念のための欠勤をすることがあった。

#### ⑥ 価格変更

2023年4月より、お肉/お魚/JhoJho セット・カレー・う～めん等、食事メニューの50円値上げが決定した。

病院様と協議を行い、病院職員様と一般利用のお客様一律での値上げとなった。

ドリンク・デザート・モーニングメニューは据え置きで様子を見ることとなった。

### 6. 年間行事

皆が集まって行う行事はコロナウィルスの状況もあり控えた。

・季節の行事・・・団子をたべよう！！(5月)

カレーを食べよう！！(8月) 芋煮を食べよう！！(11月)

お餅を食べよう！！(1月)

・支援計画面談・・・年間各スタッフ2回

・検便・・・・・・・・・・4月、10月(年2回)

・避難訓練・・・火災、地震、水害(垂直避難)

## 2022年度（令和4年度） 相談支援センターほっぷの木事業報告

## 【状況】

更新月の関係で、毎月の更新・モニタリング数に波はあるが、安定した件数を継続して対応することができている。令和4年度は新規利用が1件あり、これまでの延べ人数（ファイル数）が91件になった。また、対応していたが3月末までに計画相談を終了した方が4名いるので、実際に計画作成に対応している件数は68件となっている。最終内訳は法人内件数17件（ほっぷ1件、ほっぷの実1件、びすた〜りフードマーケット9件、cafeteria olive・びすた〜り榴ヶ岡6件）その他外部の事業所が51件となっている。

本人・ご家族の高齢化に伴いサービス事業所の変更やサービスの追加、サービスの種類の変更を行っている。また、介護保険サービスとの併用や介護保険サービスへの移行等、地域包括支援センターや居宅介護支援センターとの連携も密に行っている。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、訪問や面談を無理に行わず、電話やメール・郵送など様々な方法で対応を行った。今現在落ち着いてきてはいるが、ご希望を確認しながら対応している。

## 1. 件数

上記の通り、サービス終了の方を除き68件のモニタリング面談と報告、更新に伴う利用計画案の作成を行っている。月にすると、少ない月で20件程度。多い月で30件程度対応している。必要に応じて計画作成以外の面談や通院・役所同行も対応しているので、毎月予定している面談回数よりも対応面談数は多くなる。計画に関わらない面談時には、各事業所に訪問して『サービス提供時モニタリング加算』（上限39件）を請求したり、その他複数回面談した時等の加算を都度請求している。

## 2. 相談内容

今年度はB型からA型、A型の事業所変更や移動支援の再利用依頼が多く、コロナ禍でも移動を伴う動きが増えてきた。

コロナ禍において、余暇活動の制限があり、移動支援等利用できない状況が続いていた

が、少しずつ緩和してきて余暇を楽しむ動きが出てきているので、新たに事業所を探すところから対応した。

コロナ禍で訪問を控えていたため、自宅訪問がないためか自室の掃除ができずに過ごしていた方も増え、部屋の片付けのためにヘルパーを検討する等自宅での支援を検討する動きも出てきている。

介護保険と併用、または介護保険への切り替えのケースも変わらず対応しており、引継ぎ等を丁寧に行っている。

現時点でたくさんの新規の計画相談に対応することは難しくなっているが、毎月のように新規の問い合わせは来ている状況なので、お話を聞いた上で、すぐには対応できないことをお伝えし、他の相談支援事業所につないでいけるよう対応している。法人内の相談はできる限り対応していく。

### 3. 他機関との連携

担当件数のうち7割以上の方が法人外の方になっているので、細やかに連絡を取らせて頂き普段から情報共有を行っている。訪問時はその月の対象者だけではなく、自分が関わっている利用者の方々にもできるだけお会いできるよう調整して頂き、少しの時間でも様子を確認できるようにしている。

事業所と平行して、外来通院や入院等考えられる方に関しては、通院先の相談員の方や主治医とも情報共有するようにしている。

介護保険サービス事業者との連携も大切になってきており、本人の高齢化だけでなく、ご家族の高齢化に伴い、多方面から生活環境を整える必要がある場合もあるので、地域包括支援センター等に相談させて頂くことが増えている。

その他行政や金銭管理サービス・後見人等、関わっていただいている機関とはしっかり連携が取れるよう顔合わせを行い、電話連絡やその他書面でやり取りしている。

### 4. 会議・研修について

昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度も会議等の開催があまりなく参加する機会も少なかった。WEBでの会議等もあったが、訪問の合間に参加す

ることが難しく参加できなかったものも多い。色々な関係機関の方々と話す機会がありがたみを改めて感じた。今年度は色々動きに変化が出てくると思うので、機会があれば相談支援の『質の向上』のため、仙台市障害者自立支援協議会や各区自立支援協議会のネットワーク会議や研修に積極的に参加していく。各種会議等では特に計画作成の手法や各種サービスの活用法を学び相談者への対応に活かしている。その際コロナ禍ではあるが、参加者との交流を行い『横のつながり』をしっかりと作り、今後の支援につないでいけたらと思う。

また今年度はその他必要な研修等参加し、スキルアップを行っていきたい。今後主任研修等も参加していけるように準備していく。

相談支援センターほっぶの木  
相談支援専門員 針生里美